

News Release



【参考資料】

[この資料は 2006 年 8 月 2 日にドイツで発表されたものの翻訳です。](#)

2006 年 8 月 7 日

BASF、2006 年第 2 四半期(4~6 月)業績を発表

- 力強い需要を背景に 123 億ユーロの売上高を計上(16%増)
- 特別項目を除く EBIT(利息・税金控除前利益)は 19 億ユーロ(15%増)
- 新事業の統合作業は円滑に進展
- 農業・栄養関連製品部門を取り巻く厳しい事業環境
- 2006 年通年の業績は売上高・利益ともに前年の高水準をさらに上回る見込み

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、極めて好調だった前年同期をさらに上回る過去最高の業績で 2006 年上半期を終えました。

- 2006 年第 2 四半期の売上高は 16%増の 123 億ユーロ、特別項目を除く EBIT(利息・税金控除前利益)は 15%増の 19 億ユーロ
- 2006 年上半期の売上高は 250 億ユーロに迫る前年同期比 20%以上の増加。特別項目を除く EBIT(利息・税金控除前利益)は前年同期比で 17%増の約 38 億ユーロ

こうした業績に加え、上半期には利益ある成長に向けて大きな成果を達成しました。中でも、際立った実績として、独デグサ社の建設用化学品事業の買収、米エンゲルハード社、米ジョンソン・ポリマー社、ベルギーのクロップデザイン社の買収が挙げられます。

BASF 取締役会長のユルゲン・ハンブレヒトは、2006 年第 2 四半期および上半期の業績発表で、次のように述べています。

「買収を通じて実現されたポートフォリオの拡充は、景気の循環に対してよりいっそう強靱な BASF を作り上げるといふ当社の戦略上、非常に重要な要素となるものです。また、新事業の統合も円滑に進んでいます」。

上半期の事業環境は BASF にとって有利に働きました。経済状況は改善の兆しをみせており、見通しも明るいと見えています。アジア、とりわけ中国、インド、韓国が急速に成長しています。米国の経済環境は安定し、欧州そしてドイツの需要は上向きです。通常夏期にみられる需要鈍化の動きは見られず、BASF 製品への需要は引き続き旺盛です。

その反面、石油価格の長期にわたる高騰や中東をはじめとする地政学的緊張は依然として市場の懸念材料です。原料価格のかつてない高騰が BASF の利益率に対してさらなる圧力となっています。そのため、多くの製品ラインで販売価格の値上げを強いられました。コストの高騰に対応するための値上げは今後も避けられない状況です。

市場での地位を一層強固なものにするため、BASF はポートフォリオの最適化を継続するとともに、イノベーションによって製品・サービスの価値を高め、事業再編およびコスト削減を世界規模で進めます。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒102-8570
東京都千代田区紀尾井町 3-3
TEL: 03-3238-2341
FAX: 03-3238-2514
URL:<http://www.basf-japan.co.jp>

2006 年通年の見通しは引き続き楽観的

ハンブレヒトは、経済環境が引き続き前向きに展開すると予想しています。化学業界については、地域によってその程度は著しく異なるものの、全世界では 3%を超える成長を予測しています。ハンブレヒトが目標として掲げるのは、市場を上回る成長です。BASF は 2006 年通年のユーロ/ドルの平均為替レートについて、1 ユーロ=1.25 米ドルと予想しています。また、原油価格の高止まりを踏まえ、ブレント原油の年間平均価格予想については 1 バレル=65 米ドルに引き上げました。

ハンブレヒトは次のように述べています。

「2006 年上半期の力強い実績を受けて、通年についても楽観的な見通しを維持しています。前年の高水準を大幅に上回る売上高と、特別項目を除く EBIT(利息・税金控除前利益)を達成できると考えています。そして、これまでに実施した買収が下半期の売上に貢献し、500 億ユーロをはるかに上回る売上高を見込んでいることに加え、特別項目を除く EBIT(利息・税金控除前利益)の上積みも期待しています」。

買収実施後も健全なバランスシートを維持

最高財務責任者のカート・ボックは、買収の結果として負債額が 110 億ユーロに増加したにも関わらず、格付け会社が BASF の財務内容に優れた評価を与えていると指摘し、「BASF の自己資本比率は 40%を若干下回るものですが、これは依然、業界内では極めて高い水準にあります」と述べています。また、上半期の営業キャッシュフローは 22 億ユーロへとさらに増加しました。

2006 年上半期、BASF は総額 6 億 8,100 万ユーロの株式買い戻しを実施しました(平均取得価額:1 株 63.04 ユーロ)。うち 3 億 4,200 万ユーロについては、2006 年 2 月に発表した 5 億ユーロの買い戻しプログラムによるもので、このプログラムは 2007 年の年次株主総会まで継続されます。1999 年に株式の買い戻しプログラムを開始してから、これで約 21.5%の買い戻しを行ったこととなります。BASF では、今後も株式の買い戻しを実施して参ります。

事業部門別の業績:引き続き旺盛な需要

化学品部門:

売上高は 22%増加しました。これは、新しい触媒部門と南京の新プラントが販売量を押し上げたことなどを主因とするものです。特別項目を除く EBIT(利息・税金控除前利益)が 15%減少したことについては、原料価格の大幅な高騰による利益率への大きな圧力と、主要プラントのメンテナンスおよび停止に起因します。

プラスチック部門:

売上高は、スチレンおよびポリウレタンを中心に販売量が増加したことから、8%の増加となりました。利益は 15%伸長しました。

高機能製品部門:

すべての部門が 5%の増収に貢献しました。利益への大きな圧力と原料価格の高騰により、好業績であった前年同期と比較して 23%の減益となりました。

農業・栄養関連製品部門:

同部門は減収減益となりました。農業製品部門における減収は、販売量の低下と北米ジェネリック事業の大部分を売却したことによるものです。米国においては 2006 年年初より気候条件の影響で殺菌剤への需要が大幅に減じています。また、ブラジル通貨レアルの上昇が南アメリカの減益につながりました。ファイネケミカル事業本部は、アロマケミカル事業が好調だったことに加え、受託生産および、パーソナルケア事業の買収が奏功し、増収増益となりました。一方、生産能力の余剰と原料価格の高騰は、これまでと同様、リジンとビタミン C の利益率に対する圧力となっています。なお、同部門の増益には、継続的なコスト削減策も貢献しました。

石油・ガス部門:

売上高と利益は、高止まりする原油価格と天然ガス販売事業の販売量が著しく増加したことを受けて、50%増加しました。

地域別の業績:全地域で売上高が増加

第2四半期の成長を牽引したのは、2桁増の売上高を達成した欧州とアジアでした。

欧州地域:

第2四半期売上高は、前年同期比で21%増加し、75億ユーロに達しました。特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は、石油・ガス部門の貢献が大きく、26%の増加となりました。

北米地域(NAFTA):

売上高は5%以上増加しました。エンゲルハード社の買収とポリウレタン事業における販売量増加が増収の主な要因です。

特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は25%減の2億6,300万ユーロでした。テキサス州ポートアーサーで計画されるスチームクラッカーのメンテナンスと農業製品の販売量低下が主な要因です。

アジア太平洋地域:

引き続き成長市場であり、売上高は18%増加しました。中国、南京のフェアブント拠点が増収に大きく貢献しました。BASFは数週間前にパートナーの中国石油化工(SINOPEC)と5億ドルの追加投資に合意しています。川下プラントへさらなる投資を行い、またスチームクラッカーの生産能力を拡大します。特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は32%増の1億2,500万ユーロでした。

南アメリカ、アフリカ、中東地域:

売上高は8%増加しました。特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は、ブラジル通貨レアルの再評価に伴うコスト上昇でマイナスの影響を受けました。

###

【将来の予測に関する記述について】

この文書には「将来の予測に関する記述」が含まれています。その性質上歴史的な事実であることが明確でないものや、将来のできごとに左右されることが避けられない本文書内の記述はすべて将来の予測に関する記述であり、これら記述の特定には、「anticipate(予測する)」、「believe(確信する)」、「expect(予想する)」、「estimate(推定する)」、「plan(計画する)」といった用語や、同様の表現が一般的に用いられます。これらの記述は現在の期待、BASFの経営に対する評価および予測、現在入手可能な情報に基づいたものです。これらは将来の業績を保証するものではなく、予測が困難な一定のリスクと不確実性を含んでいるほか、将来のできごとに関する、正確とは限らない仮定に基づいています。BASFの実際の結果、業績、達成事項は、多くの要因によってこれらの記述が明示的または黙示的に示したものと大きく異なる場合があります。これらの要因に関する詳細な情報はBASFが証券取引委員会に提出した報告書(Form 20-F)に記載されています。

■ BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標榜する世界の化学業界のリーディングカンパニーです。BASF の製品群は、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカルから原油や天然ガスに至るまで多岐にわたります。あらゆる業界のパートナーとして信頼されている BASF は、高度なソリューションと高品質な製品によって、顧客のさらなる成功をサポートしています。BASF では、新技術の開発により新たな市場を切り開いています。また、経済的な成功、環境保護、および社会的責任を果たすことでより良い未来に貢献しています。約 9 万 4,000 人の従業員を擁する BASF は、2005 年度には 427 億ユーロを超える売上高を計上しました。BASF の株式はフランクフルト(BAS)、ロンドン(BFA)、ニューヨーク(BF)、チューリッヒ(AN)の各株式市場において取引されています。同社のインターネットホームページアドレスはwww.basf.com(英語)です。また、BASF ジャパン(株)のホームページのアドレスは、www.basf-japan.co.jp(日本語)です。

■ この件についてのお問い合わせ先

BASF ジャパン株式会社

コーポレート・コミュニケーションズ 山田 真紀 Tel. 03-3238-2341

BASF ジャパン株式会社 広報代理

ヒル アンド ノウルトン ジャパン株式会社 野田 葉子 Tel. 03-5768-8412